



# 1 「障害者週間」作品展

入場無料

全国から募集した「障害者週間のポスター」の全推薦作品の原画(86点)及び「心の輪を広げる体験作文」の最優秀賞作品(4点)を展示します。

日時 令和3年12月3日(金)～9日(木) 10:00～18:00 会場 クイーンズスクエア横浜 主催 内閣府

## 令和3年度「障害者週間のポスター」最優秀賞作品

【小学生区分】



### 「共に輝く」

わだ みゆ  
和田 実結

徳島県 徳島市新町小学校(3年)

【中学生区分】



### 「スマイル！」

かみ さわ あや せ  
上澤 彩世

横浜市 横浜国立大学教育学部附属特別支援学校中学部(1年)

## 令和3年度「心の輪を広げる体験作文」最優秀賞作品

心の輪を広げる体験作文 審査講評 令和3年度「心の輪を広げる体験作文」審査委員会委員長 三田 誠広

【小学生区分】

### 「えがおをつなぐ手話」

く ぼ  
久保 なのは

福岡県 大牟田市立手鎌小学校(2年)

小学校の二年生が手話に興味をもって、手話の会に参加し、努力の末に手話を習得するまでの過程を綴った作品だ。七歳の健常者が手話というものに興味をもつその出発点の姿勢をまず讃えたい。習得の具体的なようすも丹念に書かれ、何よりも言葉が通じる喜びを語っているところに感動を覚えた。

【中学生区分】

### 「子ども食堂は社会への窓口」

せつ ち みる  
薛 知明

名古屋市 名古屋市立若葉中学校(2年)

家族の全員が発達障害を抱えているという困難な状況の中で、料理の出来ない母と子が、各地の子ども食堂によって救われる過程が描かれている。子ども食堂と出会う前は、孤食で、食べるものは食パンだけという状態だった。子ども食堂のスタッフとの心の温まる交流で、母の気持ちが開かれていき、子にとっても未来が広がっていく。まさに心の輪の大事さがここに示されている。

【高校生区分】

### 「チャレンジド」

く ぼ てん しん  
久保 天清

鹿児島県 鹿児島県立鹿児島工業高等学校(2年)

生まれつき両手の肘から先がないという書き手が、それを障害ととらえずに、努力によってさまざまな可能性を追求していく話で、とくに字を書いたり、テニスのサーブをするようすがリアルに描かれ、読む者の胸を熱くする見事な作品になっている。

【一般区分】

### 「私の思い」

さかえ  
榮 ひより

大阪市

健常者の作者が、近所に住む障害のある児童との交流を描いたものだ。小学校に入って特別扱いという一種の差別を受けていたその児童が、見識のある校長の赴任によって差別を撤廃され、いきいきと成長していくさまが描かれている。このような見識をもった教育者によって「心の輪」が広がっていく可能性が示された意義のある作品となっている。

